

第一歩

北野小学校長 丹羽 郁人

子供たちにとって、突然で、しかも三か月にも及ぶ休校は、不安を抱き、ストレスになったに違いない。友達と語らうこともできない。楽しみにしていた行事もない。学校生活で思い出を作れない。子供たちに対して、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。

今日、学校再開の第一歩が踏み出された。まずは、地区ごとの分散登校である。丁寧にそれぞれの子の心身に寄り添っていききたい。

全くもとのように戻ったわけではないが、第一歩を歩めたことをとても嬉しく思う。

我々大人が、子供たちにしてあげることが何か。最もすべきことは何か。それは子供たちに「生きる力」をつけさせることであると考える。

1 自分で、自分の健康状態を管理し、自分を守る習慣を身につけさせたい

Withコロナ、Withウイルス、With感染症の中で、自分自身の身体や心、自分の身のまわりの人を守っていく術(すべ)を、子供たちに身につけさせたい。

我々が、子供たちの体温を測って子供たちの体調を知ることが大切だ。しかしそれ以上に子供たちが自分や身のまわりの人を守るために、自分の体温の測り方を身につけ自分の体調の変化に気付ける術が身につくこと、手を洗う意味について正しく理解し、自分を守る習慣を身につけることこそが、大切だと考える。

言われたからやるのではなく、自分で考えて動けるように、みんな育てていきたい。

2 「正しく恐れ 冷静に行動する」ことを学ぶ場でありたい

新型コロナウイルスに限らず、ウイルス、感染症は、これからも我々の前に立ちほだかるであろう。死に至ることもあり、理想論だけでは済まされないことだ。

ただ、我々はもちろん、子供たちにとっても「正しく恐れ 冷静に行動する」ことを学ぶ場でありたいと考える。「なぜ、手洗いをするのか」「なぜ、マスクを穿するのか」「なぜ、休校が続いているのか」子供たちの発達段階にあわせ、子供たちに分かる言葉で語りかけ、考えさせたい。

「正しく恐れ 冷静に行動する」ことを皆が学べば、少なくとも差別や偏見が生じる世の中にはならないはずである。

今日、学校再開の第一歩が踏み出された。

それぞれの子の心身に、丁寧に寄り添っていききたい。

